

人口問題審議会第2回人口問題と社会サービスに関する特別委員会

第2回人口問題と社会サービスに関する特別委員会は、平成7年12月8日10時より12時まで厚生省共用第9会議室において開催された。議題は人口問題と各省政策に関するヒアリングということで、今回は厚生省、国土庁、建設省、文部省から報告を受け、その報告をめぐって質疑応答が行われた。各省庁の報告は以下の通りである。

1. 厚生省：人口問題と社会保障政策
新ゴールドプランの健全な発展の推進
2. 国土庁：国土審議会計画部会における当面の主要検討事項
人口推計等に関する要望
3. 建設省：人口問題と建設行政
健康で心豊かに生きるための住宅・社会資本整備を目指して
4. 文部省：人口問題と文教政策

(金子武治記)

日本人口学会1995年度 関東・東北地域研究発表会

標記研究発表会(大友 篤理事, 南条善治理事担当)は、1995年12月2日(土)13時30分~16時30分、川崎市の日本女子大学人間社会学部25番教室において開催され、以下の3つの発表が行われ、大学院生を含む21名の参加者によって活発な討論が行われた。

1. 配偶関係別推計人口を利用した人口動態分析(平成6年度家庭・出生問題総合調査研究事業)… 水上 孝
(厚生省統計情報部人口動態課), 大友 篤(日本女子大学人間社会学部)
2. 東京の結婚年齢: 1993年子育て環境調査から… 廣嶋清志(厚生省人口問題研究所)
3. 家族変動論再考… 清水浩昭(日本大学文理学部)

(廣嶋清志記)

日本老年社会科学会第37回大会出席報告

日本老年社会科学会第37回大会は10月18~20日の3日間にわたり、大阪市の2つの会場に分かれて行われた。高齢化・長寿化の進展にともない、老年社会科学に対する関心が高まるなかで、本大会への参加者も年々増加し、今年は18セッション、のべ123の報告とシンポジウムが用意され、熱心な討論が行われた。一般報告は、高齢者の生活全般にわたる広い分野を網羅するとともに、報告者も20代から80代にわたり、文字通り長寿社会を目の当たりにする観があった。今年は1月に関西大地震を経験したところから、とくに、震災・ボランティアに関するセッションが設けられ、大災害が高齢者に与える影響等の報告が強い共感を生んだ。

老年社会科学が高い関心を呼ぶのにともない、報告も多岐にわたるようになっているが、医療・福祉・介護などの分野の比重が高まる反面、人口の年齢構造や社会政策に関する報告が相対的に少ないのが残念ではある。そのなかで、黒田俊夫氏(日本大学総合科学研究所)は「高齢者社会論の年齢錯覚」と題して、人口統計において慣例的に用いられている年齢3区分の見直しを主張した。また、府川哲夫氏(国立公衆衛生院)は「高齢者介護への人口統計的アプローチ」として、推計人口、生命表、世帯のマイクロシミュレーションを用いて、子どもに対する親の相対人数を計測し、高齢要介護者のすそ野の広がりを指摘するとともに、子どもにとっての親の介護負担の指標として有用であるとの報告を行った。

(中野英子記)